

令和 2 年度
木の国・山の国県民会議
各専門部会の取組状況

令和2年度専門部会の取組状況

部会名	森づくり部会	担当	森林整備課 整備係
部会長	篠田 成郎		
構成員 (所属名)	篠田 成郎 <部会長> (岐阜大学教授) 山川 弘保 <副部会長> (林業家・郡上市民病院医師) 河野 美佐子 (一般財団法人岐阜県地域女性団体協議会副会長) 河尻 和憲 (一般社団法人岐阜県林業経営者協会理事) 高橋 知樹 (一般社団法人岐阜県森林施業協会副会長) 長瀬 雅彦 ((一社) 高山建設業協会理事、たかやま林業・建設業協同組合専務理事) 細江 広伸 (南ひだ森林組合代表理事組合長) 宮崎 英伸 (岐阜森林管理署長) 毛利 理恵 (有限会社大原林産取締役)		
今年度 計画	1 令和2年度検討事項 ・部会の取組み内容についての検討 <hr/> 2 検討事項の具体的取組み ・意見交換を通じた取組み内容の検討と意見聴取		
実施 状況	3 取組状況 ■第1回 (令和2年9月24日 (火)) ○令和2年7月豪雨災害の概要 及び 意見交換 【主な意見等】 ・近年の災害では土砂災害が大きい。森林整備の重要性が増している。 ・スマート林業など新しいことを取り入れていかないと進まない。 ・森林への関心、理解を深めることが大事。まずは森林に目を向けてもらいたい。		
	■第2回 (令和2年11月11日 (水)) ○現地視察：早生樹 (コウヨウザン) 植栽地 【主な内容】 ・岐阜県における生育状況について説明。 ・コウヨウザンの植栽状況について説明。現地視察		
	■第3回 (令和3年1月8日 (金)) ※オンライン開催 ○水動態による森づくりの視点 及び 意見交換 【主な意見等】 ・豪雨に伴う土砂災害が頻発している。災害と森林は密接な関係があり、森林の水管理を適正に行うことが重要。「伐りすぎず、残しすぎず」の適正な林分管理を進めるべき。 ・森の利益をどう分配し、防災機能を高めるにはどうするかを考えていくとよい。		
	■第4回 (令和3年2月12日 (金)) ※オンライン開催 ○建築から考える森づくり 及び 意見交換 【主な意見等】 ・木造住宅建築において木の利用を拡大するには、建築側が山の現状を理解することが大事である。 ・インフラ整備において森林整備の優先順位は低く、災害があっても復旧が進まない。 ・林業従事者が少ないことが山が荒れる原因の一つであり、小学生の頃から林業教育をすべき。		
	4 取組結果 ・令和2年7月豪雨災害の状況について理解が深まった。 ・早生樹植栽地を視察し、早生樹利用の取組みについて理解が得られた。 ・「水動態による森づくりの視点」及び「建築から考える森づくり」の説明を聞き、意見交換を行った。 ・ゾーニングに沿った森林づくり、作業道の適切な維持管理、学童期の林業教育の必要性等についての意見があった。		
今後の 課題	5 今後の課題 ○適正な森林づくりの検討 ○第4期森林づくり基本計画に向けた施策の提言		

令和2年度 森づくり部会 取り組み結果

○ 適正な森林づくりの検討

○ 第4期森林づくり基本計画に向けた課題と意見

第1回 森づくり部会 (R2.9.24)

1 森づくり部会の運営について

- ・ 部会長、副部会長の選出

2 検討テーマについて

- ・ 令和2年7月豪雨災害の概要について
- ・ 第4期森林づくり基本計画について

3 視察先について

【主な意見等】

- ・ 近年の土砂災害では土壌被害が大きく、間伐地でも崩壊がある。
- ・ 災害が多く発生するなど林業に向いていない地域は林業地から外した方がよい。
- ・ 仕事はあるがやる人がいない。スマート林業で改革しないと進まない。
- ・ 木材流通量などのデータが広く共有できるとよい。
- ・ 境界確定などの土台を構築すべき。
- ・ 持続的な森林経営のためには獣害対策が必須。
- ・ 都会の人が自然を感じてもらえるような活動もよい。



第2回 森づくり部会 (R2.11.11)

コウヨウザン植栽地の視察

事務局から以下について説明後、植栽状況を視察

- ・ コウヨウザンについて
 - ・ 岐阜県における生育状況について
 - ・ 視察地(コウヨウザン植栽地)について
 - ・ その他の早生樹(センダン)について
- ～コウヨウザンなどの早生樹の植栽による低コスト化と木材収益の向上も必要～



第3回 森づくり部会 (R3.1.8 Web会議)

水動態による森づくりの視点

篠田部会長から「水動態による森づくりの視点」について話題提供の後、意見交換

- ・ 森林全体の水管理を適正に行うことが重要。
- ・ 森林整備は災害防止のベネフィットがある。

【主な意見等】

- ・ 全県一律ではなく、地域ごとに的を絞った森林整備、ゾーニングに合わせた森林づくりを行うべき。
- ・ 収益性の高い森林は環境能力も高い。
- ・ 木材搬出には作業道の適切な維持管理が必要不可欠。
- ・ 木を使うには山のことを知ることが必要。
- ・ 第4回は桂川委員から話題提供。

第4回 森づくり部会 (R3.2.12 Web会議)

建築から考える森づくり

桂川委員から「建築から考える森づくり」について話題提供の後、意見交換

- ・ 山の現状を知ることが大事。
- ・ 地元材を使い森林の循環が進むとよい。

【主な意見等】

- ・ 木造住宅など木の使用に関し、木の種類が問われなくなっている。
- ・ インフラ整備において森林の優先順位が低く、災害があっても森林整備が進まない。
- ・ 林業従事者がいないことが、山が荒れる大きな原因の一つ。
- ・ 小学生の頃から林業教育や普及PRをした方がよい。

◆ 森づくり部会としての今後の取り組み

- ・ 森林の利用目的や管理方針、整備箇所等の考え方、根拠の明確化
- ・ 森林から生まれる利益を誰とどのように分配していくか？

を常に念頭におき森林づくりを行う。

令和2年度専門部会の取組状況

部会名	木づかい部会	担当	県産材流通課 消費対策係
部会長	中島由紀子		
構成員 (所属名)	中島 由紀子 <部会長> (NPO法人グッドライフ・サポートセンター事務局長) 岩井 香織 (公募委員) 桂川 麻里 (建築士) 川合 千代子 (水環境もやい研究所 代表) 田口 房国 (株式会社山共 代表取締役社長) 田中 露美 (岐阜県生活学校連絡協議会 副会長) 山川 弘保 (林業家・郡上市民病院 医師) 吉田 理恵 (NPO m u s u b i 代表)		
今年度計画	<p>1 R2年度検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産材利用拡大に向けた新たな取組みについて <p>2 検討事項の具体的取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大や自然災害の発生等により社会情勢が大きな変化を迎えるなか、新たな県産材利用拡大に向けた政策提案について意見をいただく。 		
実施状況	<p>3 取組状況</p> <p>■第1回(令和2年9月11日(金)開催)</p> <p>○検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の検討事項について ○「ぎふの木づかい施設」の認定 <p>【主な意見】</p> <p><令和2年度の検討事項について></p> <ol style="list-style-type: none"> ①コロナ禍におけるテレワーク等での新しい県産材活用方法 ②若い人に向けたツーバイフォー住宅等の新たな県産材住宅 ③地震等災害時の木造応急仮設住宅建設に必要な県産材材料の備蓄方法 <p>■第2回(令和3年2月25日(木)開催)※オンライン開催</p> <p>○検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィズコロナ・アフターコロナ社会における県産材利用に向けた政策提案について ・東京オリンピック・パラリンピック選手村ビレッジプラザ提供木材の活用方法について ・木造応急仮設住宅への県産材材料備蓄について <p>【主な意見】</p> <p><ウィズコロナ・アフターコロナ社会における県産材利用に向けた政策提案について></p> <ol style="list-style-type: none"> ①新たな都市づくりの中で建物整備へのCLTの利用、50年経過後の建物廃材は再生エネルギー資源として木材を活用していくため、この実現に向けた木材の流通の仕組みについて検討すべき。 ②外材価格の高騰に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で外材の流通が滞っている今をチャンスと捉え、県産材シェアの拡大に向けた取組みが必要。 <p><東京オリンピック・パラリンピック選手村ビレッジプラザ提供木材の活用方法について></p> <ol style="list-style-type: none"> ①後利用方法について、県内の児童・園児をはじめ、県庁内でも部局横断的な幅広い意見聴取が必要。 ②東京オリンピック・パラリンピックの施設に岐阜県の木材が使われたレガシーをどう伝えていくのが重要。 <p><木造応急仮設住宅への県産材材料備蓄について></p> <ol style="list-style-type: none"> ①備蓄には、災害の影響が少なく、かつ広大で物流の条件が整った場所が望ましく、近隣県との各種協定の締結等、円滑な材料供給のための仕組みづくりが必要。 ②備蓄のみならず、通常はレジャー用宿泊施設として使用し、災害時には応急仮設住宅として提供する方法について検討することも重要。 <p>4 取組結果</p> <ol style="list-style-type: none"> ①社会情勢が大きく変化していくなかでの新たな県産材利用拡大に向けた政策提案に対し、都市づくりを通じた県産材利用や県産材の流通についての意見をいただいた。 ②県産材を使用した10施設を「ぎふの木づかい施設」として認定し、県ホームページで広く周知した。 		
今後の課題	<p>5 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ社会の下、時代のニーズに応じた新たな県産材利用方法について、さらなる検討が必要。 		

令和2年度専門部会の取組状況

部会名	普及・教育部会	担当	恵みの森づくり推進課 木育推進係
部会長	伊藤 栄一		
構成員 (所属名)	伊藤 栄一 (森のなりわい研究所代表) 大村 統子 (岐阜県小中学校女性校長会長) 桂川 麻里 (建築士) 加藤 正吾 (岐阜大学応用生物科学部准教授) 田中 露美 (岐阜県生活学校連絡協議会副会長) 中島 由紀子 (NPO 法人グッドライフ・サポートセンター事務局長) 吉田 理恵 (NPO musubi 代表)		
今年度計画	1 令和2年度検討事項 ○「森林総合教育センター (morinos)」のプログラムについて ○「ぎふ木遊館」の運営及び木育プログラムについて <hr/> 2 検討事項の具体的取組み ○「森林総合教育センター (morinos)」開所後のプログラムに係る意見をいただく。 ○「ぎふ木遊館」開館後の施設運営状況、及び木育プログラムに係る意見をいただく。		
実施状況	3 取組状況 ■第1回 (令和2年9月11日 (金)) ① 「森林総合教育センター (morinos)」のプログラムについて 【主な意見】 ・ぎふ木遊館とmorinosが連携したプログラムの実施が必要である。 ・今後はより山側と川下側を意識した、繋がりのあるプログラムを作っていく必要がある。 ・morinos単独で全てを伝えるのは難しいため、地域特性の異なる場所との連携が必要。 ・森に対する価値観を変え、経済的な側面で回していく事も重要。 ・森林に関心のある方や、都市部から来る方が比較的多い。意識改革という考え方からすると、林業に携わる方や山村地域にお住まいの方々にお越しいただき、自分たちの周辺にある森林の価値を見直す機会となると良い。木を売るだけではなく、森をどう提供していくかが重要である。 ・木の利用だけではなく、メンテナンスを学べるようなプログラムがあると良い。		
	■第2回 (令和3年2月15日 (月)) ① 「ぎふ木遊館」の運営及び木育プログラムについて (※オンライン開催) 【主な意見】 ・木育指導員の活用をお願いしたい。中には福祉関係で働いている人もいるので、福祉との連携を始めとした色々な活動に広まっていけば良い。 ・子どもだけではなく、「大人の木育」というプログラムもあっても良い。 ・より広い年代の方々に来館いただけるような展開が必要である。 ・様々なプログラムがコロナにより中止・縮小になった事は残念だが、コロナ禍でも対応できる取組みを行って欲しい。		
	4 取組結果 ・「ぎふ木遊館」及び「森林総合教育センター (morinos)」の運営状況、実施プログラムについて理解が得られた。 ・「ぎふ木遊館」と「森林総合教育センター (morinos)」が連携を進める中で、今後の「ぎふ木育」のさらなる普及に向けた課題を整理した。		
今後の課題	5 今後の課題 ・「ぎふ木遊館」と「森林総合教育センター (morinos)」の連携 ・ぎふ木育指導員など多くの指導者の活用や、福祉など幅広い分野との連携 ・morinosを核とした県内森林教育の指導者や、地域特性の異なる自然体験施設との連携 ・ぎふ木遊館における、コロナ禍にも対応できる木育プログラムづくり		